

夏の虫を観察してみよう

内島くに子（佐倉市）

日 時：2023年7月22日（土）10:00～12:00

参加者：31名（大人12名、子ども19名）

担当指導員：伊藤、小川、西野、井上、内島

梅雨明け宣言が発表された日の最高気温は32℃、スタッフは熱中症対策を入念に準備して参加者を待つ。集合した参加者は、夏休みに入り開放感に浸っている子どもたちと決して虫嫌いではなさそうな父母たち、良い観察会になりそうな予感がする。

2班に分かれてのスタート。1班は建物を出てすぐにセミの抜け殻を見つけた子がいて、セミの抜け殻の観察からスタート。2班は帰る途中セミの抜け殻集め競争を行った。集めたセミの抜け殻を机に並べ、花島公園にはいろんなセミがいることを実感した。セミの種類は、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ。野原に向かう途中では、ひとりのお母さんが羽化したばかりのニイニイゼミを見つけてくれ、しばらくの間皆で感動を共有した。

野原ではたくさんの虫が出迎えてくれた。子どもも大人も嬉々として虫を追いかけている。ハナムグリを捕まえて子どもにカナブンと教えていたお父さんがいたが、あえて訂正はしなかった。まとめの時間にカナブン、ハナムグリの特徴を担当者が話してくれたので、そんな形で解決だ。

集めた虫はカップに入れ、その周りに全員集合。カップを回しながら観察し、虫の特徴に気づいてもらう。バッタとキリギリスの違い、オンブバッタとショウリョウバッタの違いなど、実物を見ながらだから教科書の写真より分かりやすいだろう。

続いて質問形式のコミュニケーション。例えば、コモリグモの仲間に関しては「おしりについている白いものは何だと思う？」当たらなくても子どもの発想は面白い。しばらくして、「たまご」と言い当てた男の子は日頃から虫好きなのだろうか、捕まえた虫の数も多く虫の名前も結構知っていた。虫好きな子もいればそれほどでない子もいたかもしれないが、子どもたち全員が、虫に向かい合う時真剣な表情をしていた。虫からすれば、悪い気はしないかもしれない。

ブルーシートを敷くと、何か始まるみたいだぞと不思議そうな表情を浮かべる親子、バッタの追い込みだ。草むらに隠れている虫を、手や網を使ってシートの上に追い上げる。びっくりしながらピョンピョンと前進する虫たち。教員をしているという参加者が、この遊びは学校でも活用したいと話していた。理科の教材に一役買うことができた。

虫合わせ：ショウリョウバッタ、オンブバッタ、クビキリギリス、アジアイトトンボ、ノシメトンボ、シオカラトンボ、ハグロトンボ、モンシロチョウ、ベニシジミ、ヒメアカタテハ、ハナムグリ、ハムシの仲間等

最後は冷房の効いたセンターに戻り一休みした後、カナブンの飛行が始まる。恐る恐る糸を手取る子どもたちもすぐに慣れ、カナブンの飛行を観察している。担当者がカブトムシとカナブンでは翅の使い方が違うことを説明、子どもたちは大喜びでまたやりたいと話していた。何人かのお父さんは、虫を捕まえたのは子どものころ以来だと興奮気味に語ってくれた。花島公園での観察会は協議会としては初めてのこのようだが、来年はさらに応募者が増えることだろう。



虫を捕まえている子どもたち



捕まえた虫の生態を説明